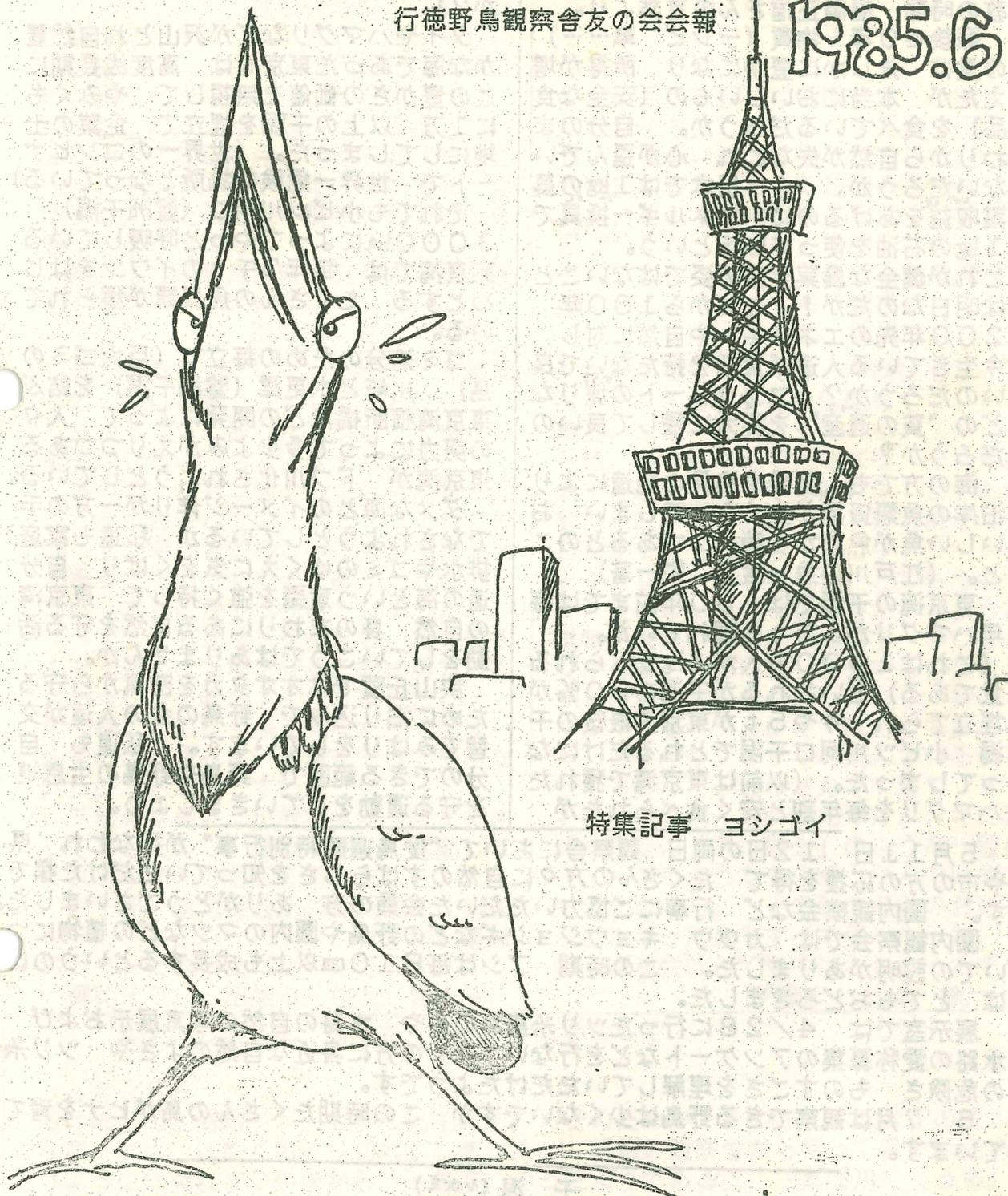


# すずが老通信

32

1985.6

行徳野鳥観察舎友の会会報



特集記事 ヨシゴイ

おけるもんかっ!

17

自然を守る

田久保 晴幸

# はあと

“自然を離れて豊かさはない” “物質には価値はない” (自然農法-NHK宗教の時間 福岡正信さんの言葉より)

戦後40年 物質(テレビ 車……)の量は たしかに豊かになり 所得が増えたが 本当においしいもの(安全な食品)を食べているだろうか。自分のまわりから自然が失われ 心が歪んでいないだろうか。今 日本では1kgの農業収益をあげるのに エネルギー換算で1kgの石油を使っているという。これが健全な農業生産の姿ではないことは明白なのだが! これから100年 200年先のエネルギーや自然に対し 今生きている人達が責任を持たないで良いのだろうか? コンクリートの塊りなどの“貧の遺産”を膨大に残して良いのだろうか?

海の方でも 開発や漁具の発達により 沿岸の魚類資源が少なくなってしまい おいしい魚が魚屋から消えつつあるとのこと。(江戸川の魚-渡辺 栄一著)

東京湾の干潟では 30年前までは毎年ハマグリが1万7千も獲れていた。(これは1000万人が1kg食べられる量である)といわれるが干潟の90%が埋立てられ 今や5tが東京湾最後の干潟 小比ツ川河口干潟でとれるだけになってしまった。(以前は東京湾で獲れたハマグリを毎年割と安く食べられたが

5月11日 12日の両日 観察会において “愛鳥週間特別行事”が行なわれ 県や市の方の応援を得て たくさんの方々に自然のすばらしさを知っていただけた様です。園内観察会など 行事にご協力いただいた会員の方 ありがとうございます。

園内観察会では カワウ キョウジョシギなどの野鳥や園内のマツなどの植物についての説明がありました。この時期 アシは毎日10cm以上も成長するというのは とてもおどろきました。

展示室では 4/28に行ったツリ糸集めの会や 水路の自然の写真展示および 水路の愛称募集のアンケートなどを行ない 多くの方に身近な自然のよさや ツリ糸の危険さ ものすごさを理解していただけたようです。

6 7月は観察できる野鳥は少くないですが この時期たくさんの鳥がヒナを育てています。

現在は高いアサリを食べていないだろうか?)

タイやハマグリなどが沢山とれ自然豊かな海であった東京湾は 高度成長期にこの豊かさの価値を無視して やみくもに1万 以上の干潟を埋立て 企業の土地にしてしまった。(世界一のコンビナートで 世界一危険な場所となっている)

それでも小比ツ川河口(盤洲干潟)1000haによってやっと呼呼吸している東京湾では 毎年7千7百のイワシをはじめとする たくさんの魚貝類が獲られている。

ゴミ処分のための毎立て(巨大ゴミの島) 川崎と木更津(盤洲干潟)を結ぶ東京湾横断橋などの開発によって 人々の努力によって多少よみがえりつつある東京湾が ドブ川化されようとしている。

ダメな海とのイメージ作りが一方の手でなされようとしているが 私達も家庭排水やゴミのゆくえに気をくばり 自分達の海という意識を強く持って 東京湾の自然 身のまわりにある自然を守る活動をしていこうではありませんか。

狭山丘陵ではオオタカを密猟から守るために泊り込みで 野鳥の会の人達が交替でみはりをしています。私達も自分のできる範囲で 野鳥や野鳥の生息地を守る運動をしていしましょう。

## 干潟(いかた)

干潟およびそれに続く浅場(もば)と干潟の後背地は 大森林同様の生物生産量があり 空気や水を生き物達の方できれいにしています。

そして 干潟では貝や魚が育ち 渡り鳥がエサをとる 鳥にとつてのガンソンスターの役割を果たしています。

また 人々の生活に関係の深い 漁業やレクリエーションの場でもあります。行徳から浦安にかけては 広大な干潟が発達していました。行徳の保護区もこの干潟を埋立て 野鳥のために造成されたものです。御猟場と保護区間の間の石垣が昔 海とを分けていた堤防で それより南の土地はすべて戦後の埋立地です。

## 新浜探鳥会 感想文

三月十日は天候も良く 待望のセイタカシギ スズガモ オオジョリなど計47種の鳥種に恵まれました

これは私共の日帰り探鳥会の最高記録となりました。この豊かな自然も買下はじめ地元の方々の自然保護のご努力のたま物と厚くお礼申し上げます。

一昔前のヨシ原と蓮田が 高層マンション街に变身した今となっては せめて残存している蓮田や湿地の一部でも 自然を伝える公園として保存されることを願って止みません。

終りに行徳野鳥観察会友の会の御活躍を お祈り申し上げます。

稲垣 恒雄

先日は御親切にいろいろ教えて頂きまして 誠に有難うございました。三十年ぶりに訪れた新浜が すっかり変わってしまい おどろきました。

あの頃一ヶ月二回そして毎月の様に通って鳥に熱中していた事と 二十代の青春(?)時代のたのしい探鳥会の思い出があったものですから 夢がこわれてしまい 本当にかっかりいたしました。

「すずがも通信」を拝見し 田久保さん方が熱心に環境を守るために努力していらっしゃる事がよく分かりました。昔の様にたのしく鳥を見るだけでなく 鳥達の為に住み良い環境を守ってやらなければならぬです。

先日の探鳥会に小中学生が 多く参加してましたので 彼等が将来 運動してくれる事とたのもしく思いました。

息子が 自然保護が森林保護の仕事をやりたいと山形大に入り 目下朝日連峰のカモンカ観察会に熱中しています。

御礼まで。井上 きこ子

4月14日に初めて新浜探鳥会に参加させていただきました。鳥の種類の多いのに おどろきました。

シギ チドリには時期がやや早かったのですが ツルシギ コチドリ メダイチドリなどに会えました。またセイタカシギの優美な姿には感激です 小学校2年の息子も久しぶりに のどかな田園風景の中を歩いて大よろこびでした。私共都会の者にとって妙典の蓮田は 探鳥だけでなくなかなか見られない貴重な風景ですが いずれ姿を消すとのことで残念です。少しでも多く現在の環境が残されるよう願っております。

武藤 健二

4月14日 ぼくは 今回はもちろん探鳥会にさんかするの始めてで 見る鳥といえば 家の近くにいるスズメ ハト類 カラスなどで モズを それも自分で望遠鏡を使って見たのは とても感動でした。その他 ぼくは名前さえ知らなかった カワウ シロチドリ メダイチドリ……をみるのは とてもうれしく 父のしゅみにつきあうというような気持で来たのにもかかわらず いつしか父からすこしはなれ 自分でも自然に目が鳥のすがたをおうようになり。特にハマシギ セイタカシギ はとてもかわいく コサギやダイサギの飛んでいる姿は とても美しく とつぜんでてきて「ゲッ」と鳴いて飛んでいったオオジョシギには見た瞬間に「飛行戦士」のような一種のイメージのようなものがうかんでいまでもきえませんが。その他の名前のおぼえられなかった鳥もすべて美しかったです。新浜探鳥会とはとてもすばらしかったです。

増山 航一

## 真間川の桜並木 満開キャンペーンに参加して

坂口 敦

4月28日 桜はほとんど満開で 人も多く出ていた。そのためか その日に売るはずの桜もちは午後早々には ほぼやくも売り切れてしまった。行徳の観察会から持ってきた販売物はおもようには売れず 午後からやっとな波にのつたようである。「真間川にくる鳥」という題で掲示物をつくったが 28日の朝になってからあわてて できていないところを作ったので 雑なところもあった。掲示物の中に写真も展示しました。マスコットなどは 朝になってからニスをかかわかして 名前をいれ 午後になってから売りだしたので 売れゆきはよくなかったが 販売物の売り上げは全体としてはまあまあだった。ほかに 粉石鹸も販売していました。この粉石けんは 魔油(食用油)から作ったもので 自分たちでお金をだしあって 工場まで作ったそうです。魔油は 家ごとにポリタンクを配って1ヵ月後に取りに行くそうです。(前に話した桜もちは とてもおいしかったです。)

ガマゴイ? 原島 政己

この新浜水鳥保護区にヨシゴイが遠い南の国から渡来する季節が来ました。この号がみなさんのお手元に届く頃には保護区内で巣作りか あるいは卵をあためている 頃と思います。

私がヨシゴイと出会った頃の新浜(しんはま)は町のあちこちにパンヤコサギなどが生活する池がありました。

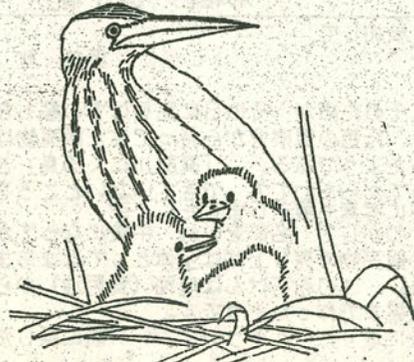
いま観察舎の裏手にある住宅は軒もなく汚水処理場を建設している所ではセイタカシギやカモ達が越冬し 夏場はカルガモやパンの親子が観察できヨシゴイもよく見られました。 いまではとても想像することもできません。

ヨシゴイは湿地の内にある深いアシ原で生活している鳥です。 地味な色をした鳥なのでアシ原や池の水面上を飛んでいる時以外は観察しにくい鳥です。

私は幸いにして 80年から83年にかけて保護区内の遊水池でヨシゴイの繁殖について調査することができたのでその記録を中心にヨシゴイの生活についてご紹介したいと思います。

保護区にヨシゴイが渡って来るのは5月中旬頃です。(これは観察舎からの観察ですので 実際はもう少し早い時期に渡って来ているのかも知れません。)

6月上旬から巣作りを始め 巣ができあがってから2~1週間の間に卵を産み始め 産卵は毎日1卵ずつが普通です。 巣を作るのは湿地の中のガマなどの抽水植物が密生する場所です 水面から40cm~1m位の高さに巣を作ります。ヨシゴイという名前ながらガマが好きでガマゴイに名前をかえたらどうでしょう



ヒナをかかえるメス

特筆記事 -ヨシゴイ-

うか。 私が調査した期間中ガマには約15個の巣を観察しましたがヨシに作られた巣はたった1つでした。

抱卵は第1卵が産まれてからすぐか第1卵と第2卵が産まれてから始まります。 卵というものは抱卵してからふ化するまでの日数が決まっています。つまり最初に産まれた卵から順にあたためるということは 最初に産まれた卵から順にふ化するという事です。これは一見あたりまえのように考えられることですが 大切な意味があるそうです。

保護区内で繁殖するカルガモを例にして説明しましょう。 カルガモは10卵前後の卵を産みますが 卵をあためるのは最後の卵が産みそろってからです。つまり 卵がふ化しヒナになるのはみんな同じ日です(2 3日ずれることはありますが。)

この違いの大きな理由は その鳥のエサに関係があるとされています。 カルガモなど植物性の餌(草の実 草の芽など)を食べる鳥はエサ不足でヒナ全部が餓死するようなことは めったにありませんが ヨシゴイのように 動物性の餌(小魚など)を食べる鳥はエサ不足になりがちです。 エサ不足の時は早くふ化した方が餌を食べ 遅くふ化したヒナはなかなか餌が食べられません。(餌はヒナが競争して親から取り合うので早くふ化した方が成長も早く競争力も強いのです。) 残酷な話ですが遅くふ化したヒナは死に その分の餌を早くふ化したヒナが食べて共倒れを妨ぐのだそうです。(もちろん餌に余裕のある時は遅くふ化したヒナも成長します。)

ヒナはある程度の大きさに成長すると巣立ちしますが 巣立ち後も親から餌をもらいます。 ヨシゴイの巣立ちはふ化しつから20日前後です(7月中旬頃。)

その後の行動については調査していないので推測ですが 8月初旬ころまでには親と同じ位に成長し 保護区内で親と同じ生活をしているようです。

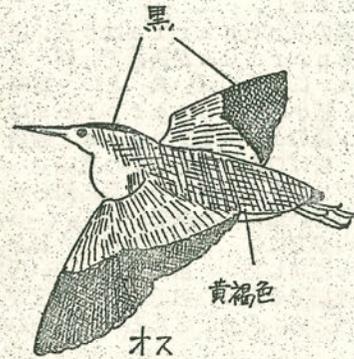
1977年8月8日に保護区内のウラギク湿地でヨシゴイの巣とふ化後数日令のヒナが確認されているので 親鳥が2番子のための繁殖行動に取りかかることもあるのかも知れません。(北米産のヒメヨシゴイとヨーロッパ産のコヨシゴイでは2番子 3番子をかえすことが確認

ガマゴイ? 純を...

されていますが ヨシゴイではまだ確認されていません。) そして10月下旬から11月上旬に南の国へ渡って行くのです。

ヨシゴイは最近 急激に減少しています。保護区周辺の池や湿地の埋め立てにより 生活の場そのものが奪われ また保護区内にも安定した湿地がほとんどありません。 淡水池と金魚池ではヨシゴイが生活していくには あまりにも狭すぎます。 淡水池には巣を作る場所は少ないながら有るものの ヒナ達を育てるための餌を取る場所が不足しているようです。 ヨシゴイやオオパン ヒクイナ タマシギといった かつての新浜(豊かな湿地 すばらしい環境)を代表する貴重な鳥達がもっと増えるように また呼び戻せるように この保護区内に淡水湿地を造り 保護区を改良していきたいものです。

原島 政己



「じゃのめ」とヨシゴイ 田久保 文子

去年の夏 その日は陽ざしが強く さわやかな日でした。

観察舎入口 欠真間三角の歩道を家族連れで歩いた時のことです。 目の前のヒメガマの中から金色と黒の色がはっきりした それは美しく光る鳥が スーツと飛び立ち 又ヒメガマの中に入りました。「あの鳥は何?」という私の声と主人の「ヨシゴイ」という声とが一緒になりました。「ほら そこにいる」「わーいるいる」 茂みの中でしたが スッと首をのびした金色の鳥 ヨシゴイがいました。

はじめて見る私は双眼鏡で見たり肉眼で見たりと落ち着かない見方を繰り返してました。 ヨシゴイの方は ここで一休みと思ってかヒメガマの動きに身をまかせ 気持ち良さそうにしていた。観察舎でこの話をすると、ヨシゴイの飛ぶ姿は金色と黒とが縞模様に見えるまるでジャノメを広がったようであることから 別名「じゃのめ」とも呼ぶとのことでした。

私は「じゃのめ」という呼名から幼ない日のことを思い出したのです。 まだ行徳に運田やアシ原が広大にひろがっていたころのことです。 その頃 私は犬を連れて 一を早朝散歩するのが日課でした。 鎖を手にした私と母が「昨夜の雨はだいぶ強かったから 水たまりに「じゃのめ」の玉子が落ちていよ」と母がいました。 犬にひかれた私はアゼ道に沢山ある水たまりの底を長靴でさぐりながら歩きました。すると母のいう「じゃのめ」の玉子(殻)が本当に落ちていたのです。 茶色の点々のある小さな玉子でした 私はそれを柔らかい草の葉につつま そっとポケットに入れました。「ねえ これが「じゃのめ」の玉子でしょ」私は家に帰ると すぐ母に聞きました。「やっぱりあったの」「でも これ空だったの」と裏側の欠けたところを見せました。 そしてそれを桜紙に包みきれいな小箱に入れ 私の大切な宝物にしました。 そんな小さな思い出が「じゃのめ」にあります。

今 考えるとその「じゃのめ」の玉子とは パンの玉子(?)だったようです 地上に巣をつくるパンの玉子が 豪雨で巣から流され水たまりに残ったものだったのでしょう。

野鳥のことを何もしらなかって亡母は「じゃのめ」の飛ぶ姿をいくどとなく見ていたので パンの玉子を「じゃのめ」の玉子と思い込んでいたのでしょう。

あの頃には人と自然とのふれあいがある形でそこらじゅうにありました。 なつかしい思い出の「じゃのめ」と欠真間三角のヨシゴイとが二十数年たって同一のものだった...とは めぐり会いのおもしろさを感じました。

いつまでも ヨシゴイの飛来する 自然のままの行徳を少しでも多く残しておきたいですね!

夏 ヨシゴイ

森田 昭次

行徳の隣町 江戸川区の荒川でもヨシゴイがみられます。観察場所は荒川の上平井水門脇の小さなアシ原です。数は1~2羽 行けば必ず見られるとは限りませんが 足繁く通いますとヨシゴイに行き会えます。

梅雨が明け 真夏の太陽の下での平地や干潟での夏鳥観察は 新浜や谷津干潟で皆さんも経験があると思いますが 暑くて暑くて大変です 木影が欲しくなります。

私のヨシゴイとの出会いは そんな暑苦しい7月中旬頃 荒川の中土手 総武線鉄橋の下でした。オオヨシキリの「ケケチ ケケチ」と鳴くだけの単調なアシ原が続く 夏草の背高ほど伸びた観察路を ヘクソカズラのつるに足を取られながら歩いていた時 ガマ混じりのアシ原から ふわっと浮き上がるように飛び上がり伸びきったアシの葉先すれすれに飛ぶ姿 逆光でのシルエットは清楚庭園で見なれたゴイサギ? と一瞬判断しましたが 目をこらして見ますと 翼の両端 風切羽にある連続した黒の紋様...ア...ヨシゴイ... まさしく野鳥図鑑から飛び出した様なヨシゴイでした。

昭和57年の夏 私のヨシゴイとの初めての出会いでした。

残念なことにこの中土手は 工事のアシ原は埋立てられ砂ばかりが無い上がり 足元からセッカが飛び立った観察路も 高速道路の建設で消え失ってしまった わずかに上平井水門の上流に約3haの まとまったアシ原が残っているのみです。

この狭くなった場所で この夏 ヨシゴイが見られると良いのですが。

荒川はコチドリやカササギの鳴き声で夏が始まり コアジサシのダイビング オオヨシキリの合唱 そしてヨシゴイの飛 夏まつ盛りです 皆さんぜひ夏の荒川へ。

野鳥紳士録

荒井 八太



☆キョウジョシギー春から夏そして夏から秋に様々なシギやチドリが保護区へ飛来します。シギやチドリの仲間には地味な色彩のものが多いですが キョウジョシギはその中でも色彩の豊かなほうです。漢字では「京女シギ」。

あの独特な体色を「京の女性」の着物姿に見立てたのでしょう。私にはメキシコ出身の覆面レスラーにも見えました。英名は「Ruddy turnstone」。

Ruddyは「赤らんだ」という意味です。turnstoneはturn-ひっくり返す-とstone-石-から成っています。クチバシで石などをひっくり返して餌をとる習性から来ています。

学名は「Arenaria interpres」。

属名のArenariaはラテン語のarenariusが語源で 砂-arena-に關係の深い鳥 という意味です。種小名のinterpresはラテン語のinterpres-通訳 又は 告げ口をする者 という意味で キョウジョシギが危険を他の鳥に知らせる という言い伝えから来ています。5月5日の夕方には 150羽程の大群が見られました。風の非常に強い日でもまた大潮でもあったので 海の水位が上昇したため 入ってきたものと思われる。

これから暑くなるまで 定例の園内観察会は 大回りのコースを取ります。鳥の少くなる季節ですが 普段見られない方向から鳥を見るのも一寸良いものです。ぜひ お出かけ下さい。

野鳥紳士録 ツツキ.....



☆カルガモ 初夏 野イバラの薫る頃 保護区にあちこちで可愛いヒナをつれたカルガモの姿が見られます。漢字では「輕鴨」。

何故 あんなに重そうなカモが「カルガモ」と呼ばれるのかわかりません。他にカモの仲間では唯一の留鳥であるため「夏鴨」とも呼ばれるそうです。英名は「Spot-billed Duck」。クチバシが黒く先端にオレンジ色の部分があるため「spot」-斑点-のあるクチバシと 呼ばれます。

とても地味な鴨で このクチバシ以外目立つ特徴はないのですが 今頃は町中の公園の池など 人間の身近かな所でもヒナ連れの様が見られるため にわかに注目を浴びようになります。

学名は「Anas poecilorhyncha」。属名のAnasは何度も出てきましたが ラテン語で「カモ」の事です。種小名の-poecilorhyncha-はギリシア語の poecilo (色変り)の rhynchus (クチバシ) から成っていて一色変りのクチバシ-と言う意味です。

沢山のヒナをかえすカルガモですが 保護区では成長した中型のヒナがあまり見られません。もしかしたらヒナがかえっても上手く成長していないのかも見れません。カルガモやヨシゴイが繁殖できる淡水の池をもっともっと増やす必要があるのではないのでしょうか。

鳥の国から

一観察舎便り

愛鳥週間特別行事が終って ようやくひと息ついたところです。タイミングよく今日は雨 利用者7名でまさに休養日。

カモもカモメもいなくなり シギもチドリばかりかサギまで少く 年間で見られる鳥が最も少ない時期になりました。

今年は3月の低温と長雨の影響が続いているのか 繁殖もいくらか遅いようでもまだカルガモのヒナもスズメの巣立ち子も見えていません。(この号が出る頃には あたり一面が巣立ちヒナだらけ 野鳥病院が迷子養育場にかわっているでしょうけれど。)

えさ場のパンは 毎年おなじみのピンクとオレンジ(カラー足環で区別できます。)が向って左手の方にリングのないつがい右の方にそれぞれ巣をもつ様子。右のつがいは、いかにもお熱いカップルで お互いに相手の顔や首すじの羽づくろいをやっています。もうもうあてられればなし。

交尾も見ているので 産卵中(抱卵中?) だろうと思います。

5月13日(月)は休館日。ほっとするのは管理人の私たちがかりと思っただけにあらさ。護岸の上に陣取ったまっ黒なノラ猫(わが家の黒猫ススム君と生き写しで少し尾が長い)がくつろいだ様子でいねいに体をなめていました。また 道路にツバメが2羽おりにいて 近づくと20m位飛んでは降り というのを3回ほどくり返していました。芝生の上ではムクドリとスズメが おちついて餌をがし。きじが芝生の上を歩いていることもあります。休館日 だ〜い好き! (来館者のみなさん ごめんなさい。)

4月15日からユリカモメの点灯飼育をはじめました。蛍光灯を夜の12時ごろまで点けておくというだけですが 相性のよいつがいがいるので なんとか産卵させたいと願っています。みごとな夏羽の5羽 さかんに求愛行動をやっていますよ。 運尾 純子

和編集員 募集中!

(誰よりも早く読める という特典あり!)

「すすがも通信」は会員の皆さんのもの。自分の手ですすがも通信を作ってみませんか? 毎月第2日曜の午後3時から 観察舎図書室で編集会議を開いています。

是非一度参加してみませんか?(出がらしのお茶も出ます。)

又 4月号から行特公民館の印刷機を利用して 会員自身の手で印刷をしています。慣れないもので 印刷の汚れなどが目立ちますが 御容赦下さい。

又 印刷だけでもお手伝いいただける方。観察舎(運尾 純子)まで御連絡下さい。

-編集部-

御苦労さま 龜谷さん

友の会発足当初から今日まで 友の会代表として 野鳥観察舎を利用する人々の便宜を向上させるため 千葉県 市川市の関係各機関に対する働きかけに御尽力を頂いてまいりました 龜谷 栄氏が 今度代表を辞められました。後任は 東 良一氏です。傷病鳥問題を始め 環境問題など多くの課題に取り組まれ 長い間御苦労さまでした。代表という肩書きのなくなった今後は 更にフリーな立場で 会の運営に直言 苦言を寄せ 会を宜しく御指導して頂きたいと思っております。 -友の会一同-

塩浜堤防 釣糸 ビニール回収大作戦

東 馨子

ガールスカウト千葉81団33名の方々の他 総勢57名が参加 海風に吹かれながら塩浜堤防沿いに約1kmの道のりを 釣糸やビニールを拾いながら歩きました。

捨てられた釣糸や重りのあることあること……用意した大きなゴミ袋に3袋分 中でも落ちていた釣糸をたぐっていったら 端に鳥の首(ツグミ?)がついていたのは さすがにショッキングなことでした。

また 秋に大々 第2段を実施しますので よろしく御願います。

参加された方々は次の通り ほんとうに御苦労さまでした。(順不同)

ガールスカウト千葉81団(33名) 北元昭子 鈴木亜衣子 奈央子 松村三千代 可奈子 鈴木有 裕子 舞 穰 慧 狩野大介 横井はるみ 渡辺啓夫 田久保晴孝 陽子 智子 寺田一哉 東馨子 秋沙 亀谷栄 角隆博 坂口勉 (敬称略 順不同) 担当:荒井俊光 東良一



私は つり糸から野鳥を守るための塩浜クリーン大作戦に参加して、その実体を見ることができ 大切なことを勉強しました。

つり糸は細いし どうめいなので見つけにくくて大へんだったけど 野鳥の命のためと思い 一生けん命さがしました。

さがしていくと つり糸が首にからまり とれなくなって死んでしまった鳥を発見しました。とつてもむざんでかわいそうな光景でした。つり糸は野鳥にとっては 敵と同じなんじゃないかと思えます。

その日もたくさんの方が つりをしていました。私たちが拾っているのに つり糸をすてる人がいました。それを見たとき 私はくやしくてくやしくてたまりませんでした。

みんなで協力して拾ったので すいぶんきれいになりましたが つり人たちにも 野鳥の気持ちを分ってもらって 野鳥の命をたすけていかなければいけないと思います。だからこれからも いろいろの人が一ち団結して野鳥を守り 野鳥のすみよい所を作っていきたいと思えます。 長井 倫子

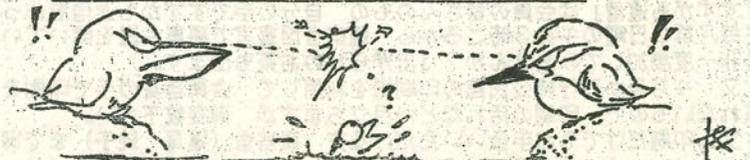
4月28日 今日朝早くおきて 塩浜へつり糸 ビニール回収にでかけました。バスにのり塩浜についたとき お兄さんがひろったつり糸を見ました。「んなつり糸があると鳥もからまって死んでしまうな。」と思いました。

それから すこしずつひろいはじめました。地面と同じ色をしているのであまりわかりませんでした。1kmぐらいいあるいたら すこしこしがいたくなつたけど 鳥をたすけるため いっしょうけんめいがんばってさがしました。

草にへばりついていたり 土の山の中にかくれていたたり その中をいっしょうけんめいさがしました。そのとき だれかが「おーい。」と よんだのでいそいでいってみると つり糸にひっかかった鳥の頭でした。つりばりをくわえてとれなくなり ひっぱったためくびから下がなくなったのでしょ。遠くから見るとつり糸に土がついているくらいにしかおもえません。でもよく見てみると くちばしがあり 目もちゃんとあつた。「まだあるかな」と思いながらいっしょうけんめいさがしました。

もうありませんでした。でもなくてよかったです。もう鳥の頭なんか見たくないです。見るなら 空をとんでいる鳥が見たいです。

つりをやっている人は つり糸をすてないでくれたらいいのにな と思いました。 村田 聖果



☆アラスカ便利

松木 護

3月24日 こちらは今 春休みです。フェアバンクスの周辺はもうすでに春!という感じです。日中の気温は 7℃~ 10℃位で 外にちょっと出る時などはジャケットなしでも寒くありません。それに加えて日照時間は12時間をこえているので 朝7時位から夕方7時半位までずっと太陽が見られます。

雪はまだ60cm位積もっていますが 日が照っているとそんなことは ほとんど気にならない位です。鳥の動きもずいぶんと活発になってきて このところ毎日ベニヒワの小群(たぶんコベニヒワも少しはまざる)がさわがしく飛びまわっているのが見られます。

2週間位前のこと アイスカービング コンテストというのがありました。毎年恒例の祭対抗の催しで 大きな雪の山(10×10×5m位)をシャベル等で けずって何かを創るというものです。

審査の前日の金曜日 他の祭は10人位ずつ人が出て雪の山と格闘しているというのに わがスティーブンス ホールの前の雪の山は何も手をつけられずに残っていました。祭長のジュリーに聞いて見ると 誰も何も作りたくないとのこと。それじゃあ僕が何か作ってやれという気になって スノービーがサーフボードの上に寝そべっているのを作ることになりました。夕食の後で(6時頃)悪友のボブと2人で雪の山に上ってムダな 掘坑を始めました。シャベルで雪の山をけずるのは思っていたより大変な仕事

で 1時間たってもスノービーのSの字もできず……これは徹夜をしなければ……などと考えながら黙々と雪をけずって いました。そのうちに見るに見かねたのか 友人が3人ほど手伝い始めてくれて おかげで11時頃には何とかそれらしい雪像ができました。翌朝 数人の友人たちと最後の仕上げをして けっこりっばなスノービーができました。何と3位!になりました。「すごいでしょ!」 労作のスノービー君も最近の春の日ざしには勝てず だいが溶けてみすばらしくなってきました。

4月12日 また冬に逆もどりしたようで ここ2週間程ずっと-10℃位のうすら寒い日が続いています。気温が低いので時々雪が新たに積もるせいでまだ30cm位雪が残っています。でも日照時間は毎日確実にのびていて 朝は6時にはもう明るく 夕方は8時半でもまだうす明るいくらいです。昨日 キレンジャク2羽とユキホオジロ15羽を今年初めて見たので 気の早い鳥たちはすでに繁殖地へ向けて移動を始めているようです。久しぶりでベニヒワ コベニヒワ ワタリガラス以外の鳥を見たので何となくよい気分です。

今学期も残すところわずか4週間 毎日話すことといたら夏休みと来学期のことばかりです。夏休みは何をすることになるかまだ決まらずにいて(大部分の友人もそうですが) 多少あせり始めています。



一行卒業内……

○サギ山見学会 6月 23日(日)

集合; 行徳野鳥観察舎前 午後 1時半  
解散; " " 午後 4時頃  
担当; 観察舎 運尾 (0473-97-9046)

定員: 30人 (小学生以上)  
電話で申し込み受け付けます。定員になり次第打ち切らせていただきます。今はサギの数も少なくなりましたが 京浜地区ではめずらしくなった 新浜のサギ山を見学します。★場所柄 カメラの持込みはできません。 -小雨決行-

# 《行事案内》

—参加費無料 会員外の方も自由に参加できます—

☆定例 新浜探鳥会 (毎月第2日曜日) 6月9日 7月14日 8月11日  
 集合; 東西線 行徳駅前 午前10時  
 解散; 行徳野鳥観察舎 午後4時半頃  
 担当; 田久保晴孝 東良一  
 持物; 昼食 飲物 帽子 バス代 (大人190円 小人100円)  
 運田は野鳥達にとって大切な繁殖の場所 ヒナ連れのパンやカイツブリを捜しまし  
 よう。 午後はバスで観察舎へ。 暑くなります 帽子をお忘れなく -雨天中止-

☆定例 園内観察会 (毎月第1 3日曜日) 6月2日 16日 7月7日 21日  
 集合; 行徳野鳥観察舎前 6月午後1時半 7月午後3時  
 解散; " " 6月午後4時頃 7月午後5時頃  
 担当; 観察舎 運尾 協賛 友の会  
 鳥達は子育ての季節 パンやカルガモがヒナ達をひき連れていく様子が見られるか  
 もしれません。 歩きやすい服装 はきもので。 -雨天中止-

☆平日探鳥会 6月4日 (火)  
 集合; 野鳥観察舎前 午前10時半  
 解散; " " 午後1時頃  
 担当; 鈴木 裕子 東 馨子  
 持物; 昼食 飲物 帽子  
 共同保育サークル「ペンギンクラブ」と共催で平日探鳥会を開きます。  
 小さなお子様連れでも 安心してお出かけ下さい。 -雨天の際は観察舎見学-

☆室内例会 6月30日 (日)  
 テーマ; 東京湾の自然 スライドとお話し  
 場 所; 野鳥観察舎 視聴覚室 午後1時半より  
 担 当; 寺田 一哉 (千葉県野鳥の会)

☆夕涼み探鳥会 7月 28日 (日)  
 集合; 野鳥観察舎前 午後5時 -雨天中止-  
 解散; " " 午後7時頃  
 担当; 観察舎 運尾  
 涼しく心地よい風に吹かれながら 保護区内を散策 ネグラに帰る鳥達を観察しな  
 がら虫の音と ツキミソウ…… 虫さされ予防のため なるべく長袖 長ズボンで

編集後 (懐) 記 ウツギの白い花かさはじめました。今年もまた、テレビ  
 アンテナの上でオオヨシキリかざっています。ご意見等をお寄せ下さい(回を厚)  
 (6月1日 栗塚同関です)  
 Oアラスカ産りの松木君、北海道野生動物保護区でシシギ、4種の小鳥の調査のボラ、ア  
 ンチンとに依りました。頑張ってください。(詳細は次号で……) 珍

すずがも通信 No. 32		1985年 6月 1日発行	
振替 仙台2-6129		行徳野鳥観察会友の会発行 年会費1000円	
発行人	東 良 一	[Redacted]	
事務局	鈴木 裕子		
編集人	田久保 晴孝		
	新 妻 途 夫		
行徳野鳥観察舎 〒272-01 市川市福栄4-2-11 ☎0473 (97) 9046			